

『臨床脈管学』

本書において以下の誤りがございました。訂正してお詫び申し上げます。

P.22 第3章 血管病変の成因と病理 B.血管炎 2.感受性遺伝子

表1 日本人集団におけるANCA関連血管炎、高安動脈炎、Behçet病とHLAの関連

【誤】

	アリル頻度			アリル保有率(陽性率)			文献
	患者群 (%)	健常対照群 (%)	OR (95%CI)	患者群 (%)	健常対照群 (%)	OR (95%CI)	
高安動脈炎							
<i>B*52:01</i>				30.0	11.6	3.27 (2.34-4.55)	9)
<i>B*67:01</i>				4.5	1.35	3.44 (1.60-7.43)	9)
Behçet病							
<i>B*51:01</i>	61.7	15.9	8.52 (5.28-13.76)				17)
<i>A*26:03</i>	7.8	2.9	2.78 (1.02-7.59)				17)

【正】

	アリル頻度			アリル保有率(陽性率)			文献
	患者群 (%)	健常対照群 (%)	OR (95%CI)	患者群 (%)	健常対照群 (%)	OR (95%CI)	
高安動脈炎							
<i>B*52:01</i>	30.0	11.6	3.27 (2.34-4.55)				9)
<i>B*67:01</i>	4.5	1.35	3.44 (1.60-7.43)				9)
Behçet病							
<i>B*51:01</i>				61.7	15.9	8.52 (5.28-13.76)	17)
<i>A*26:03</i>				7.8	2.9	2.78 (1.02-7.59)	17)